

2021 年度 就職先企業等に対する調査 (抜粋版)

調査概要

立教大学では、卒業生の就職先企業・団体を対象に「2021 年度 就職先企業等に対する調査」を実施しました。結果の一部をご紹介します。アンケートにご協力いただいた企業・団体の皆様には、厚く御礼申し上げます。立教大学では、このアンケート結果をこれからの教育の改善に活かしてまいります。

調査目的: 本学学部卒業生が備える学修成果や、さらに伸ばすべき能力等について、就職先企業等からの客観的な意見を聴取し、教育改革・改善につなげるための基礎的な情報を取得する。

実施時期: 2021 年 8 月 25 日～9 月 14 日

調査対象: 卒業後(卒業生)調査の対象者となる卒業後 5 年の学部学生(2016.3 卒)を含む 2015・2016・2017 卒の学部学生が就職した企業等、計 389 社

調査方法: Google Forms を利用したウェブ調査

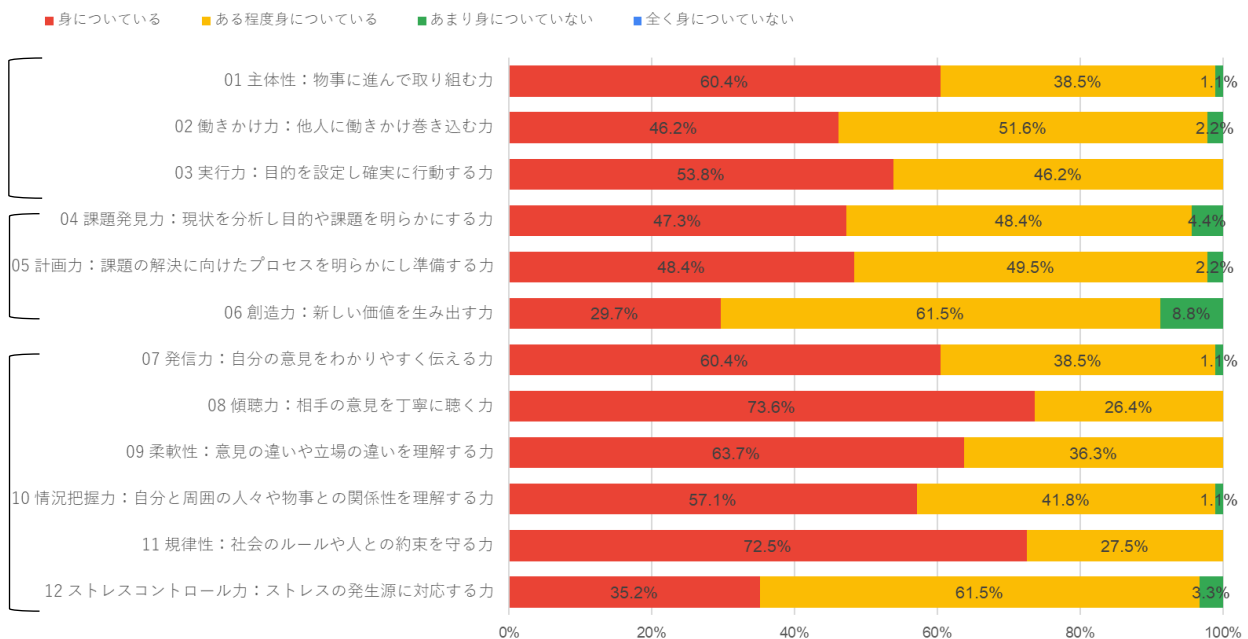
有効回答率: 23.1%(90 件)

調査結果(抜粋)

★社会人基礎力に関する設問

「実行力」、「傾聴力」、「柔軟性」、「規律性」の「身につけている」、「ある程度身につけている」を合算した肯定的回答が 100%であったことに加え、他の項目においても 90%以上と、社会人基礎力が概ね身につけているとの回答が得られました(設問2)。

設問2 以下の項目それぞれについて、立教大学出身者(卒業後 5 年程度)は他大学出身者と比べてどの程度身につけていると思いますか。(すべて n=90)



※ 01-03:前に踏み出す力(アクション) 04-06:考え抜く力(シンキング) 07-12:チームで働く力(チームワーク)

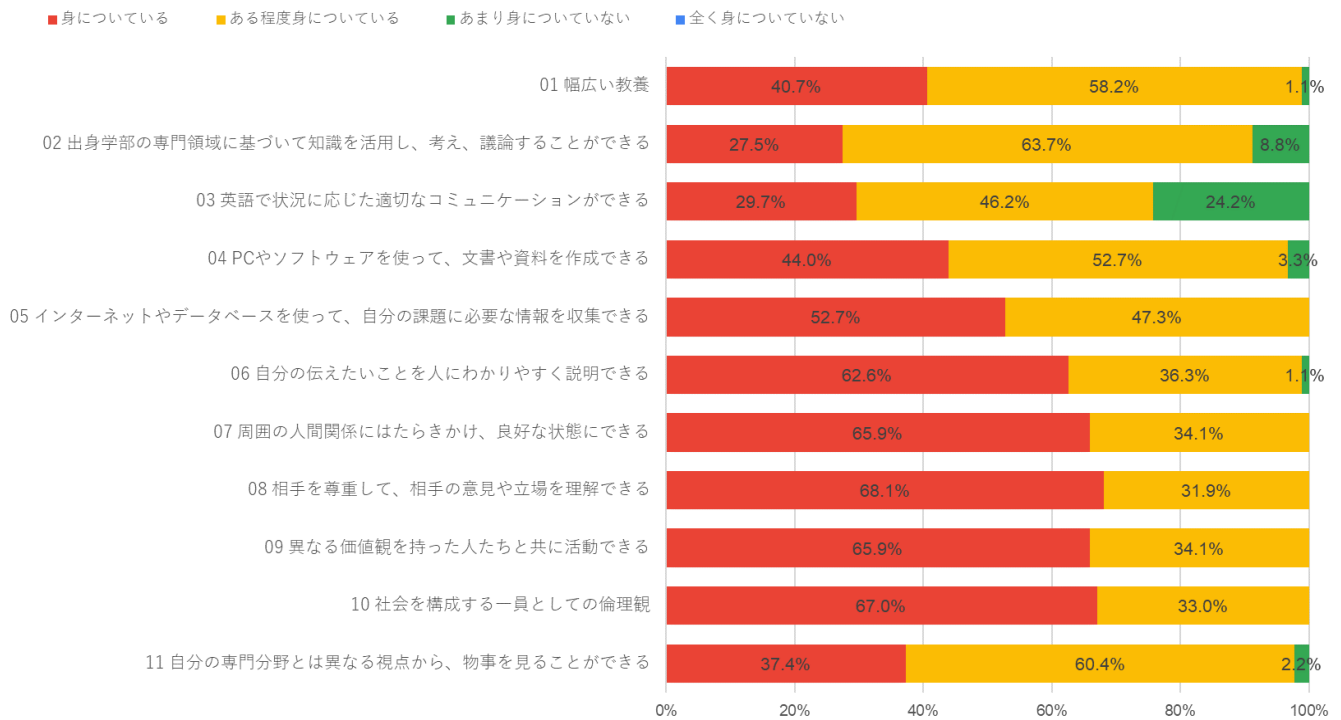
★本学が設定する学修成果についての本学卒業生の修得状況

さらに、本学が設定する学修成果についての本学卒業生の修得状況(設問3)を確認したところ、次のような結果となりました。

「インターネットやデータベースを使って、自分の課題に必要な情報を収集できる」、「周囲の人間関係にはたらきかけ、良好な状態にできる」、「相手を尊重して、相手の意見や立場を理解できる」、「異なる価値観を持った人たちと共に活動できる」、「社会を構成する一員としての倫理観」において、身につけているとする肯定的回答が100%でした。一方「あまり身につけていない」の回答が多かったのは、「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる(24.2%)」、「出身学部の専門領域に基づいて知識を活用し、考え、議論することができる(8.8%)」ではあるものの、その割合自体は低く、全体的に高い評価となりました。

設問3 以下の項目それぞれについて、立教大学出身者(卒業後5年程度)はどの程度身につけていると思いますか。

(すべてn=90)

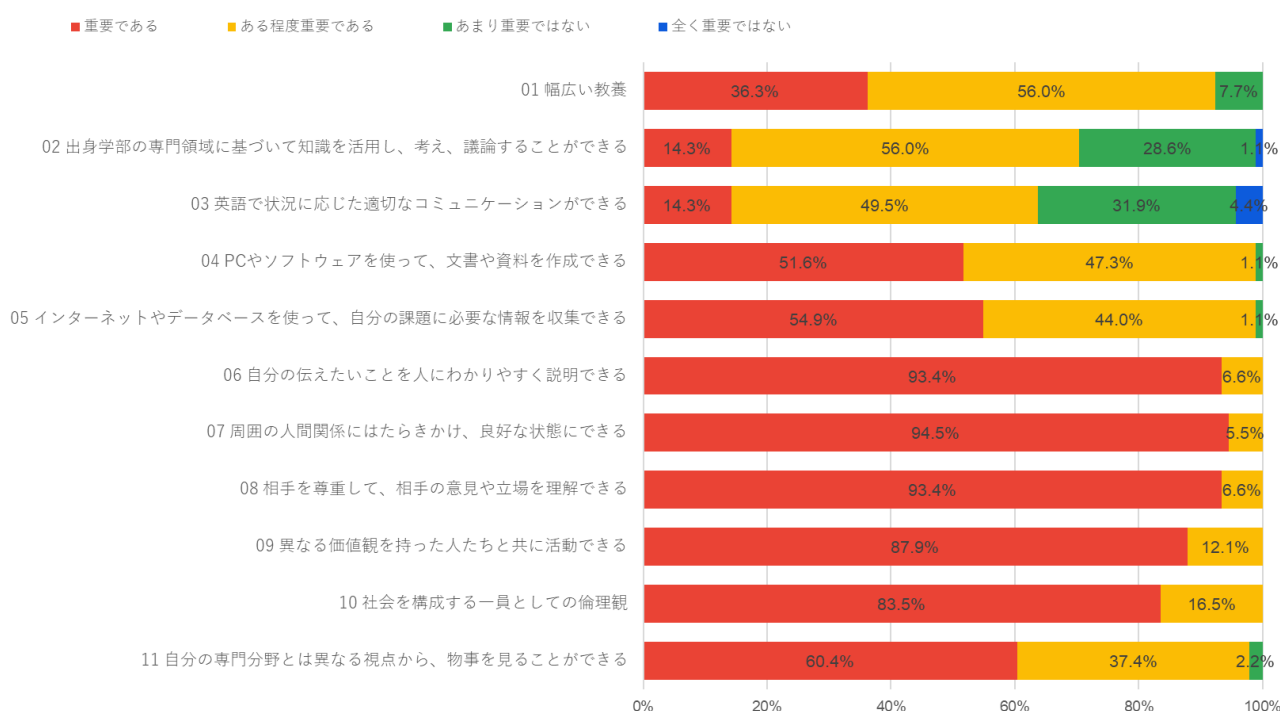


★本学が設定する学修成果に関する仕事上での重要性

調査対象企業等における仕事上での重要性(設問4)については、「自分の伝えたいことを人にわかりやすく説明できる」、「周囲の人間関係にはたらきかけ、良好な状態にできる」、「相手を尊重して、相手の意見や立場を理解できる」、「異なる価値観を持った人たちと共に活動できる」、「社会を構成する一員としての倫理観」で重要であるとする肯定的な回答が100%と高評価でした。設問3において、卒業生があまり身につけていないとの評価だった「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる」、「出身学部 of 専門領域に基づいて知識を活用し、考え、議論することができる」に関しては、重要性もあまり高くはありませんでした。

設問4 以下の項目それぞれについて、貴組織での仕事にとってどの程度重要でしょうか。

(すべて n=90)



全体的に高い評価をいただきました。アンケートにご協力いただいた企業・団体の皆様には、重ねて厚く御礼申し上げます。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

2021年12月

集計・制作: 立教大学 大学教育開発・支援センター 教学IR部会